

丸山湿原群保全の会会報

(第 147 号)

発行日：2019 年（R1）10 月 16 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061（今住^{いますみ}）E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

先月台風 15 号（9 月 9 日）被害の話題で始めましたが、今回も 19 号の甚大な被害情報が入ってきています。南アルプスから東北にかけての豪雨。河川氾濫がメインのようです。特に千曲川（長野）の氾濫は新幹線車輛基地にもおよび、今後の運行にも影響が出そうです。

千曲川は名前の通り、千回曲がる川。蛇行の激しい川です。傾斜が低く水の流れが何度も変わった証。まさしく氾濫原。氾濫そのものを人の力で制御。去年の倉敷の小田川（真備町天井川）の氾濫といい、人の力でコントロールしたものはいつか破られてしまうのが現実なのでは。

地球温暖化の影響ばかり話題になりますが、実は自然と共に生きる暮らしが失われていることが最大の原因かと。と偉そうなことを思ってしまいます。自分が被害にあっていないから言えることかもしれません。被害に遭われた方にお見舞い申し上げます。

(今住 10 月 15 日作成)

定期活動★9 月 22 日（日）天候不順と諸般の事情により活動中止

環境学習★10 月 8 日（火）西谷小学校 3 年環境学習③ フィールドワーク 2 回目

雨が降り出し実施が危ぶまれましたが、なんとか実施できそうと小雨の中スタート。雨は小康状態で途中からは雨具も必要なくなりました。

「阪急田園バス」が無くなり「阪急バス」になったためか、今回は「三田観光」のマイクロバスで登場。小型のため屋根を小枝でこすることもなく余裕の入場でした。逆に「阪急田園バス（旧西谷バス）」の運転手さんをリスペクトいたします。（三田観光さんも強者ぞろいですが…）

環境学習です。まずは恒例の挨拶と少々説明。「私たちの名前覚えていますか？」と聞く前に…



雨中で目についたツルニンジン

「名前覚えてる？やろ」と児童の声。「ふむふむ」前回は少し思いましたが、先読みできる子どもたち。今日も楽しくなりそうです。しかも、しっかり名前は覚えてくれていました。

説明のなかで、雨（曇り）の観察の利点を説明。利点①晴れや光が強い日はコントラストが強く、日が当たっているものばかり見てしまいがち。ところが曇りだと普段日陰になっているところも目の「黒目」が開きよく見える。猫の眼に例えましたが？？？かな。

利点②気温が低くなり昆虫や爬虫類の動きが鈍くなる。捕まえやすい。（出現数は少なくなるが…）

利点③普段目にすることの少ない湿り気の好きな生き物を観察できる。しかも雨を楽しめる！（雨が好きな人も当然います。）

爬虫類の動きが鈍くなるという話で悪い癖が出てしまいました。

「遊べる蛇もいるよ～！」と。実は前日（晴天）の下見でマムシを発見。ついつい観察してしまいました。当然これは超危険！触れません。子ども達からも「マムシ」「ヤマカガシは？」と。やはり西谷の子。よく知っています。ヤマカガシは奥牙から毒を出します。普段はおとなしくカエルなどを飲み込むときに動きを抑えるため（消化のため？）に毒を使います。捕まえるために使うこと

はありませんが「安全」とは言えませんね。触ってはいけない蛇です。しかしこの 2 種類以外は西谷に毒蛇はいません。むやみに恐れる必要なし。でもシマヘビは攻撃的で噛まれたら血が出ます。痛いです。興味のある人は革手袋やゴム手袋で遊んでください。(ひょっとしていけないことを言ってる?)

長くなりました。しゅっぱーつ！といきなり雨の日のお楽しみが…蛇？いえいえサワガニ(沢蟹)が道に上がってきています。早速つかまえ「食べる相談」ではなく観察。なぜ陸にカニが上がってくる？オス・メスの見分け方を考えてくれたら面白いのですが。ぜひ調べてください。サワガニは産卵も面白い。興味はつきません。(私のですが…)



道に出てきたサワガニ♂でした

進むとナツハゼ(夏櫨)の実を発見！味見味見。「おいしいような、まずいような」なんともいえぬ甘酸っぱさ！好きな人は好き。「ブルーベリーみたい！」との声も。鋭い！どちらもツツジ科スノキ属の木。ブルーベリーの日本種と言えるそうです。後半で食べたイソノキ(磯の木)の実はクロウメモドキ科イソノキ属。葉っぱが全然違います。こちらの方が甘みが強い。両方味わった子どももいましたがどちらが美味しかったでしょうか？酸っぱいほうがジャムにはいいような…

進みましょう。竹筒ポストに石を入れ、いざ湿原へ。途中カエントケ(火炎茸)を観察。危険！さらに「蛇や〜！」の声。「しもた！いらん事言うてもうた」と思ってももう遅い。「遊べる蛇か見てくれ」と。見ると 20 cm ほどの幼蛇。長靴で指導の会員が押さえつけてます。マムシでもヤマカガシでもなさそう。基本的に全身茶色。安全と判断。キャッチ！オ〜なんとかわいい「ヒバカリ(日ばかり)ちゃん」。首の白い模様が目印。最もおとなしい蛇です。



とてもかわいいヒバカリ 2 歳ぐらい？

ところが命名は「噛まれるとその日ばかりで死んでしまう」と言うところからついたとか。不思議ですね。死んだ人もいないのに。蛇嫌いが多からでしょうか？噂があてにならない見本か？あまりの可愛さに子どもたちも触ったりよく見たり楽しんでいました。でも、むやみに捕まえることはやめましょう。

同じ種類でも色や柄が違ったりします。(個体変異) 有名なのが「カラスヘビ」。一般的にはシマヘビの黒色変異を言いますが、ヤマカガシ・マムシ・アオダイショウにもあります。西谷はこの黒化

型が多い地域ではないかと思っています。ジムグリにはあるのかな？ジムグリ自体めったにお目にかからないし…そうそうアオダイショウやシマヘビは幼体(子ども)のころマムシに擬態しています。模様がよく似ています。(幼体のみ) 賢いですね〜！

湿原は秋には少し早いし夏でもないしと端境期の雰囲気。スイラン(水蘭)は湿原の中で咲いていました。これも減少傾向が著しい花。ウメバチソウ(梅鉢草)が咲き始め。蕾は数えきれないほど生育。花期の比較的長い花です。氷河期からの遺存植物。葉っぱの形や飾り雄蕊の面白さに気付いたかな??? 学習用に 1 輪持ち帰りました。またオオウラジロノキ(大裏白の木)の実が豊作。「リンゴやで食べて！」と悪魔の言葉。天使は「じゃあ先に食べて！」と意趣返し？どっちが悪魔かわかりませんが先に食



ウメバチソウ



スイラン (キク科)



オオウラジロノキ果実 (小リンゴ)



第 4 湿原歩道 小悪魔たち



スケッチとともにポーズ

べました。「あ〜リンゴや、おいしい!」と。天使もガブリ。天使と悪魔は同時に吐き出していました。しかしほのかに残るリンゴの味。小リンゴ楽しんでください。でもまずはオオウラジロノキを見つけてくださいね。何度も書いている気がしますが「至福の果実酒」といわれるぐらい美味しいリキュールができるそうです。子どもはダメダメ。

最後に木の枝にぶら下がるキイロスズメバチ(黄色雀蜂)の大きな巣を確認。軒下に作るときは丸いのに、木の下は縦長に巣作りする不思議を感じ取ったか? 考えてほしいですね。答えは私も想像していますが真実は知りません。

駐車場に戻って採集した植物の確認と振り返り。画題を見つけるのが一つのテーマになっているようで、スケッチをしている子も。集合して冬の活動説明。お別れとなりました。1学期よりずいぶん成長していました。3学期はどんな姿を見せてくれるのでしょうか。楽しみです。



最後の振り返り



去り行く三田観光マイクロバス

定期活動 10月12日(土) 定期活動 基礎調査 は台風19号のため中止
10月14日(月) 基礎調査のみ2名で実施 この日も雨

最初に台風に触れましたが、今回の活動日も台風襲来。全体の活動は中止しました。基礎調査はデータ取りのため有志2名で行いました。台風は風も雨もほとんど影響なく西谷を通り過ぎていきました。お祭りが各地域で行われる予定でしたが、宵宮の巡行・宮入はどこも中止されたようです。宮司いわく、このようなことは初めてとのことでした。数十年に1度の気象が毎年起こる時代。丸山湿原が埋まってしまうこともあり得ます。神仙に祈るしかないのでしょうか。それともライフスタイルを変えることが必要でしょうか?



視点場データ



雨の竹筒ポストカウント

目的	市内	市外
丸山	50	30
ハイキング	14	20
その他	16	30

来場者数 計 160 人
(竹筒ポスト人数)

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度 (EC)	PH
入口	10:17	17.8℃		
第3湿原	10:33	【17.3℃】	40.3 μ S/cm	7.0
視点場	10:45	17.1℃	32.4 μ S/cm	6.0
第1湿原	10:57	【18.0℃】	32.3 μ S/cm	6.2
第2湿原	11:21	【17.3℃】	37.0 μ S/cm	6.4

ササ(笹)の話

丸山湿原(バッファゾーン)を代表する笹、アリマコスズ(有馬小蕎)の情報です。

先日、といっても9月初旬ですが、神戸の望月さんという方からメールをいただきました。望月さんはアマチュアのササ研究家。アリマコスズの標本を採らせてくださいと問い合わせ。

タケササ類に興味を持つ人は少なく、種の同定も困難。しかもタケササ類は邪魔ものとして最重要刈り取り植物にしています。ただ、アリマコスズだけは希少種ということで、多分これがアリマコスズという隈のあるササを保護していました。(以前愛媛 RDB A ランクと紹介) 全く自信なし。ガイド時には自信たっぷり「ササ愛好家が泣いて喜びます」と言っています。間違ったら除

名か？と腹をくくりました。とにかく阪神北県民局に採取の連絡を入れ待機。

そしてついにその日が。望月さんは誠実そうなお方。優しくお土産までいただきました。**まず最初に「タケとササの違いご存知ですか？」と。**きたきた！「タケとササは仲間で特別分けないのでは？」と。同類なのでひとくくりにはできるはず。知ったかぶり、見栄がついつい。

そこに明確に「分けられます」と望月さん。今度は謙虚に教えていただきました。見分けは簡単。目から鱗です。成長したタケ類は竹皮（鞘）が残らない。おにぎりを包んだり、中華ちまきに使うやつね。ところがササ類は笹皮（鞘）がついているということです。タケササ問題？はこれで解決。

次に出てきたのが手作りの「ササ類稈鞘の挙動見本」。(稈＝稲・竹などの、中空になっている茎)つまり鞘が枝に対してどのように付いているかの見本。この鞘の付き方で分類が楽になるそうです。画像にもありますが小林幹夫氏(宇都宮大学農学部教授)の最も新しい分類法だそうです。内鞘的・外鞘的・移譲的と説明してもらい、**基本アリマコスズは移譲的で時々違う性質が出るそうです。これは雑種起源によるものとか。**かなり



手作りササ類稈鞘の挙動見本 感謝！

話が難しくなってきました。合っているかも自信がない。レクチャーはここまでとして出発。駐車場から足を踏み入れた途端。「これです」と。「こちらの山の方にもありますね」と。私たちは群落状のところばかり意識していましたが、マニア(失礼か?)の方にはすぐ目に入ってくる。かなりテンションが上がっておられるようです。行く道々、ここにもあそこにもとどこにでもあるように



アリマコスズ標本を宝物のように採取

…。珍しいものではないのではと疑問が顔をのぞかせてきました。そして谷沿いの群落や旧道沿いの群落を案内。というよりこちらが案内されてるようでした。旧道の群落で標本を採取。「最も典型的な基質を持ったもの」を採られたようです。アリマコスズの特徴は、葉の両面が無毛(ツルツル)で葉数は2枚ほど。丈が短い。鞘に対し垂直の毛が多数生える。ただし、毛は若い個体のみ。8月までの観察が好ましいそうです。葉に隈ができるのは冬を越した(寒気をうけた)ものだそうです。知識を持って観察すると間違えにくい種だそうで、となるとまたまた珍しくないのではと…。

湿原周囲のササも気になっていたのもそちらも案内。しかしそちらはミヤコザサ(都笹)とのことです。特徴は節に膨らみ(玉のような)があること。湿原周囲にはアリマコスズは全くなし。湿原に対し北側南向き斜面の比較的湿り気の多い部分にだけ分布していることが判明しました。

後日連絡があり、**標本が「人と自然の博物館」の標本庫に入った**とのこと。各器官の特徴がはっきりと確認された最も確かなアリマコスズの標本だそうです。なんか、うれしいですね！

丸山のように万単位のアリマコスズが確実に確認されているのはおそらく日本で唯一とのこと。研究者と愛好家の少なさが発見されない原因とも言われていました。しかし、**分布が極めて局所的なのは間違いなさそうです。**タケササ類の開花は60年～120年に1度といわれています。竹の開花には不吉な言い伝えが多数。飢饉・地震などなど。開花後すべて枯れるのが理由か？人が一生で1度見るか見ないかの花。逆に「見た人はラッキーでは」と望月さん。開花が60年に1度と考えると、同時に違う種類が咲かないと雑種も生まれない。60年×60年＝3600年に1度の確率で雑種が生まれるとも考えられると教えてもらったような。なんというタイムスケール！

※「丸山湿原周辺のアリマコスズ - 植物雑談・質問掲示板」で検索すると望月さんの解説があります。ぜひ！質問にも答えていただけます。漢字表記「有馬小蕎」「蕎」の意味は面白い！

次回活動日 10月27日(日) 11月9日(土) 24日(日) 12月14日(土)